

ケシヨウヤナギの実生養成

ケシヨウヤナギは国内では北海道の十勝，日高地方以外は，上高地と梓川の川辺だけに隔離分布します。挿し木は極めて難しく，自然木の移植も困難です。ケシヨウヤナギの小枝は通常蠟質白粉に被われていて，冬季は枝先が紅色になるのが和名の由来です。また樹形も良いことから，川辺の緑化樹として利用されます。ここでは，ポリポットでケシヨウヤナギの養苗を試みたので紹介します。

1. 種子の採取

雌雄異株で他のヤナギ類よりやや遅い時期に花穂を出し風媒によって結実するので，6月中・下旬に，小さな果穂に着いているさく果を手でもぎ取り，葉などを除いて深めの箱に入れておくと，一昼夜位ではじけて綿毛の付いた種子（柳じょ）が出ます。綿毛は手で軽く揉むと種子と離れるので，箕に入れて風選すると充実した種子を得ることができます。1g 当りの粒数は約3000粒です。冷温（5℃以下）の場所へ密封して乾燥貯蔵すれば翌年も発芽します。（常温で保管した種子は翌年，目の発芽が皆無でした。）

2. まきつけ時期

種子を採種した直後のとりまき。また貯蔵種子は翌春。

3. ポットと用土

ポリポットは2号（6cm）を適当なコンテナに入れて使います。用土は川砂6，鹿沼土2，腐葉土1.5，水苔0.5を混合してポットに入れ，底水

でよく吸水させます。

4. 種子のまきつけ

ポット1個当り10粒位の種子を，間隔をあけて播種して，篩でふるった細かい水苔で種子が見え隠れする位に覆い，その後に如露で上から散水します。

5. 管理

散水すると種子が緑色になります。以後はポット表面の水苔が白く乾いたら散水します。10日位で発芽が揃うので，密生しているところは間引きして秋までには1個のポットで3～4本にします。施肥は発芽1ヶ月後から薄い液肥や菜種粕の置肥を2～3回施します。秋の落葉期までには子葉のついた赤い茎が3～4cm位に伸びますので，冬期は凍らせないように，ガラス室やビニールハウス内に入れて置くようにします。（写真-1）

6. 植替え

2年目の春季に芽吹くと本葉が出て生長を始めます。播種して1年経過したら植替えをします。ポットは3.5号（10.5cm）を使い，用土は多孔土の桐生砂8，腐葉土2，の混合を使います。根が長いのでなるべく切らないように鉢入れします。

施肥，散水は前年に準じて行います。秋までにはポットに1本立ちのものは苗25～30cm，根元直径は3mm位になって枝がでます。2本立ちのものは苗長20cm前後，3本立ち以上だと10～15cm位になります。（写真-2）

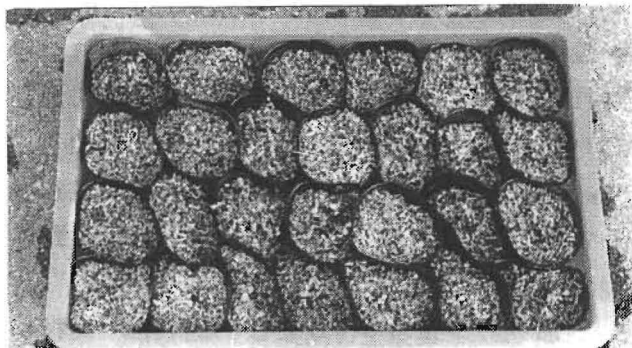


写真-1

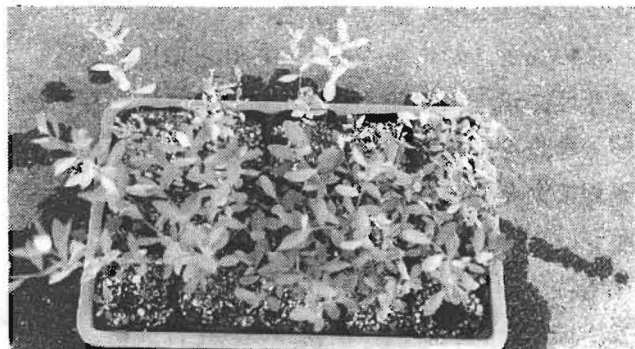
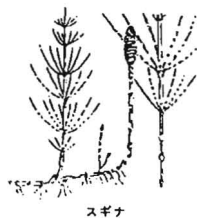


写真-2 - 2年目の夏 -

7. 定植

苗長が30cm以上になれば定植が可能です。これより大苗を作るにはさらに鉢替えをして養苗する必要があります。



8. 病害虫

用土にネキリムシ（コガネムシ，ヤガ，キリウジガガンボの幼虫）が入ると発芽直後の苗が食害を受けます。防除には有機燐剤の粒剤を用土に混入するか，乳剤をポットの上から散布します。

葉に褐変斑ができる病害がありますが，殺菌剤ベンレート2000倍液で消毒をします。

（育林部 唐沢）